



トキ体験学習を紹介します

新穂潟上にある「トキ交流会館」では、小学生から高校生を対象にしたトキ体験学習を実施しています。今年度で6年目となり、延べ1万人を超えました。修学旅行で佐渡を訪れる生徒からは体験学習コースとして、また島内の生徒からは総合学習の一環として活用されています。

トキ学習の内容として、主に2つのコースがあります。

1つ目のコースは「トキの話を聞く」で、新穂生椿で農家を営んでいる高野 毅さんから、トキ保護についての歴史や取り組み、環境保全等について、また、トキの生態等について日本野鳥の会佐渡支部の土屋正起さんからわかりやすく説明していただきます。

2つ目のコースは「えさ場づくり体験」コースで、田んぼでビオトープづくりの実習をします。講師には新穂生椿の高野 毅さんと、潟上水辺の会のメンバーをお願いしています。トキ交流会館には実習用にスコップや長靴、タモ網などを用意してあります。少人数のグループをつくり、各自がスコップを持って3メートル四方のえさ場を作ります。高野さんや潟上水辺の会の皆さんの親身な指導が好評で、最初は

おとなしく作業をしている生徒たちも、やさしい指導を受けながら泥んこ姿に変身し、土の感触を楽しんでいるようです。また、作業中に現れる昆虫や生物に歓声を上げ、トキの餌の関心も深まっているようです。

この他にも生きものの調べやオプショナルコースもあります。ご家族やグループ等での体験も行いますので、お気軽にトキ交流会館までご連絡ください。

お問い合わせ

佐渡市トキ交流会館

☎24-6040



世界遺産登録に向けて

佐渡市歴史的建造物
造物悉皆調査⑩

小木地区

○安隆寺（小木町）

安隆寺は元々は学法坊とよばれる曹洞宗寺院で、海岸部の元小木にあつたといわれています。文永11年（1274）、佐渡に流されていた日蓮の赦免状を持参した弟子の日朗が元小木の海岸に上陸した際、当時の住職が世話をしたことが契機となり、曹洞宗から日蓮宗に改宗し性善坊の名を賜つたと伝えられています。その後、安隆寺と名を変え、明暦2年（1656）、金銀の積出港として小木が栄えたことを受け、現在の小木の高台に移転しました。

安隆寺の檀家には、かつての有力な廻船問屋や商家を営む富裕層が多く、現存する本堂・祖師堂・山門は1700年代前半、清正公堂・鐘楼は1800年代前半の再建と想定され、いずれも規模が大きく豪華な造りが特徴的です。



安隆寺本堂

○称光寺（宿根木）

称光寺は正安3年（1301）開山と伝わる佐渡では数少ない時宗寺院で、遊

行七世上人が柏崎の宗徒を遣わして、貞和5年（1349）に開いたという三崎の道場がその前身と考えられています。境内からは、南北朝時代の宝篋印塔や板碑型五輪塔が出土しており、宿根木の港が、中世から渡海場として賑わっていたことがうかがえます。



称光寺山門

山門は切妻造の四脚門で、享保2年（1717）の棟札が残っており、建築年代がわかる貴重な事例といえます。また、境内右手の熊野社社殿内にある本殿は、幅・奥行きとも1間程度の小規模なものです。1600年代後半の作と推定され、島内に現存する同規模社殿の中で最も古い部類に入ります。

◆市役所 世界遺産推進課 ☎63-5136

世界遺産 出張説明いたします

市民の皆さんが主催する世界遺産に関する勉強会や現地見学会（20名程度）などに、世界遺産推進職員が出向き、お話・解説をします。事前にお問い合わせください。